



プロジェクトに参加した市民

「育てる広場」プロジェクトでは、市民会館の跡地活用を考える構想段階からおにクルオープンに至るまで、さまざまな方法で市民参加を促し、みんなで一緒に進めてきました。その最初の取り組みが2016年に開催した「市民会館100人会議」です。無作為抽出で選ばれ、参加した各年代別の市民や関係団体のみなさんと市長が直接“対話”し、活用方法について考えました。「育てる広場」は、そんな対話の中から導き出されたキーコンセプトです。2章では、2015年から8年間、キーコンセプト「育てる広場」を具現化するために、さまざまなかたちで参加し取り組みを進めてきた市民のみなさんを紹介していきます。

市民会館閉館



昭和44年(1969年)の開館以来、長年にわたり茨木市の文化芸術活動を支えてきた茨木市市民会館。経年劣化や耐震性、バリアフリーなどさまざまな課題から、平成27年(2015年)12月に閉館しました。これまで市民会館は、立地的に市の中心地に位置するというだけでなく、毎年成人式が行われ、また、かつてはそこで結婚式も挙げられていたなど、長年、市民のみなさんの「心の中心地」として機能していました。

福本雄也さん
茨木市職員(当時、大学生)



おにクルでやってみたいこと

これからは職員として、
どうおにクルと
関わっていくのか考えてみたい。

大学生の頃100人会議に参加し、そこで初めて市内にさまざまなジャンルの活動をしている人たちがいることを知りました。一市民だった頃とは異なり、行政職員になったいまは難しさも実感していますが、自分にできる関わり方を模索していきたいです。

森下美穂さん
福祉防災の活動と子育てで支援をしている茨木大好き市民



おにクルでやってみたいこと

広く知られていない
社会課題を解決する
取り組みにチャレンジしたい!

100人会議はとても緊張しました。でも市民の話を聞きたいという市役所のみなさんの想いが伝わってきました。子育て支援の活動を10年以上続けていますが、茨木市は市民のやりたいと思うことを応援してくれるまちだなと思います。

おにクルに期待すること

何もせずに寝っ転がれる場所がある
くらいのゆるさがあったほしい。

市民会館がどのようにリニューアルするのか気になり、軽い気持ちで100人会議に参加。関わってみて、市だけで進めず市民の話を聞いてくれる姿勢に驚きました。おにクルをきっかけに周りのことも知ってもらいたいです。

阿部格朗さん



おにクルが
開館する8年も前から
始まっていたんだね!



おにクルに期待すること

おにクルの価値を決めるのは、
市民がどう関わりつくりあげていくか!

少し離れたエリアに住んでいる市民が、おにクルをどう利用できるのかに興味がありました。100人会議に選出され、その後市民委員として関わる中で、少し離れた場所に住む自分も状況を見るために市民会館跡地エリアに足を運ぶようになりました。

黒田隆男さん



茨木市のいいところ

まちのど真ん中で
イベントができる!
あちこちにある公園も
活用していきたい。

市からの声かけがきっかけでヴィンテージカーショーを11回開催しています。いまや府内外から多くの人が集まるイベントですが、来る人たちに茨木市の良さを知ってもらいたい。そのためのしつけや工夫をみなさんと協力して進めていきたいです。

茨木ヴィンテージカーショー



下坂浩二さん
Junk Yard / 茨木ヴィンテージカーショー実行委員長



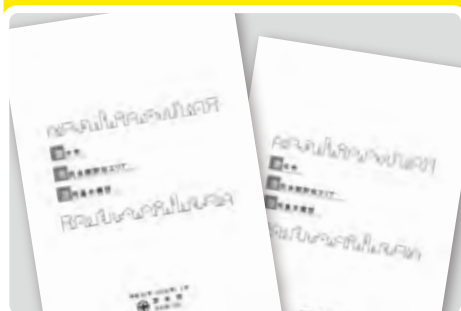
100人会議



市民会館の跡地活用について、対話を基本とした検討を進めるため、さまざまな年代や、市民会館の利用実績がある団体に所属する方など、市民のみなさんに想いやアイデア、意見について何う「市民会館100人会議」を開催しました。市長が、回ごとに約10人ずつ、10回、計99人の市民と会議を行い、非常に多様なご意見をいただきました。

2018.3 基本構想策定

基本構想策定



「市民会館100人会議」で出た意見に市の政策課題なども踏まえ、市民会館跡地エリアに必要な「導入機能」を設定したり、市民会館跡地だけでなく福祉文化会館、中央公園南グラウンド(市役所東側・当時)などを含めたエリアで検討することなどを定めた「茨木市市民会館跡地エリア活用基本構想」を策定しました。また、市民会館跡地エリア整備のキーコンセプト「育てる広場」も基本構想において決めました。

茨木市のいいところ

まちなかでよく声をかけられる、人にやさしい住みやすいまち。

障害のある人たちが地域の人たちとつながれるように「つながりまつり」を南グラウンドを会場に開催していました。市の広報誌を見て広場の芝生はりに参加。自分にもできるのかなと思って参加しましたが、やってみて楽しかったです。

六條友聡さん
社会福祉法人ぼんがぼんの職員
茨木障害フオーラムのメンバー



六條さんが参加した
芝はりの様子

おにクルに期待すること

こどもの声が聞こえるにぎやかな場所になってほしい。

ワークショップに参加して、茨木市には何かやりたい人がたくさんいると思いました。**IBALAB@広場**では、最初はステージをつくらなかったイベントが多かったのですが、段々ゆるくみんなが集まりやすいイベントが増えて、とてもいいと思っています。

おちあいさん
茨木市文化振興財団



おにクルに期待すること

茨木市の自然や歴史などを含めて魅力を発信できる拠点になってほしい。

茨木市の中心市街地活性化に関わっていた関係で、IBALAB@広場エリアの変化はずっと見てきましたし、関わってきました。おにクルになっても規則で縛らず、色々な人が入ってこられる状態をキープして欲しいです。

軒原浩さん



取り組みに参加してよかったこと

活動してみて市役所の人々の見方が変わり、支えられていることを実感！

岡村久美子さん



社会実験IBALABで、プラレールの企画を実施しました。最初は個々につないでいた小さなプラレールが、そのうち広場いっぱいの大きなプラレールになり、参加された方も一体感を感じていた様子がうれしかったです。年齢を超えて自然に参加できる取り組みがおにクルでもみられたらいいと思います。



岡村さんが開催した
プラレールのプログラム

社会実験IBALAB 2018年9月から12月まで、閉館した市民会館前のスペースに芝生広場をつくり出し、さまざまな市民企画を実施した取り組み。

基本計画ワークショップ



基本構想で想定された「導入機能」(ホール・図書館・芝生・子育て支援など)を素材に、実現したい「使い方アイデア」を出し合う「施設編」と、将来の広場整備をイメージしながら、具体的に企画を考えていく「広場編」にわかれ、ワークショップ形式で検討していきました。その後、考えた企画や設えを具現化した社会実験IBALABを実施しました。



「まずはやってみる」
IBALABの
大事な視点だね！

社会実験IBALAB



基本構想で示したキーコンセプト「育てる広場」の実現への取り組みのひとつとして、芝生広場づくりから、企画づくり、実施、芝生の撤去まで市民のみなさんとともに“つくり、育てる”社会実験を実施しました。人工台地に期間限定の芝生広場をつくり、どのような過ごし方や使い方ができるのかを考え、実際にみんなでやってみて検証することで、整備や活用内容(基本計画)につなげていきました。

IBALAB@広場の好きなおとこ

子どもたちにとっても、何かやっているからと出かけていける場所。



スケボー少年たちと
プランターづくり

広場編のワークショップから参加。ハーブのプランターづくりや、芝生はり、スケボーのボックスプランターづくりにも関わりました。子どもも巻き込んで活動に参加し、茨木市の変化を思い出として覚えてくれていることをうれしく思ってます。

酒井智児さん
Hearing Gardener



おにクルに期待すること

自由だけど善意を持って、みんなが使える場所に。

当時66歳で、60歳以上のメンバーとして100人会議から参加。社会実験IBALABでは野菜マルシェと、プランターで畑をしていました。おにクルは市民に対して開かれた施設になることを期待しており、焦らず進めていってほしいです。

塩田寛さん
塩田屋



IBALAB@広場の好きなおとこ

行けばいろんな人と知り合える拠点。

IBALAB@広場ができて、茨木市で活動している人が見えるようになって、市に関わっている人がこんなにいるのかと驚きました。声もかけやすくなり、つながりもでき、芝生から活動が生まれて、いま関わっているのは広場で出会った人ばかりです。

Locaco Project
山下智子さん



おにクルに期待すること

いろんな境界がなくなっほしい。
おにが来ても楽しめる場所に。

高齢者や障害者施設でネイルをする活動をしています。福祉施設以外でも参加できる場があればと思って、おにクルに関わる活動に参加。山間部まである茨木市の広さと魅力を再発見し、活動を通じて多世代の方と知り合うことができました。

渡辺志穂里さん
茨木産の卵と米粉を使った
チーズケーキのお店 BASQUE
こたつニスト



取り組みに参加してよかったこと

つまらないと言うことは簡単。でも自分が関わりだしてみると、おもしろい人たちが集まってくる！

100人会議に参加したことで、茨木市出身なのに知らないことがあることに気づきました。社会実験IBALABではこたつプログラムを開催するなどの活動をしていたので、おにクルでもまた活動を再開できたらいいなと思っています。

基本計画策定

基本構想において示した内容をより具現化するものとして、利用者等へのヒアリングやアンケート、また、市民ワークショップや広場の社会実験(社会実験IBALAB)など、さまざまなかたちでの対話や参加をいただきながら、新施設の施設機能、ゾーニング、管理運営や事業の進め方について検討し、「茨木市市民会館跡地エリア活用基本計画」をまとめました。

白本享子さん
福祉ネイリスト



社会実験IBALAB PLUS



前年度に実施した「社会実験IBALAB」で市民のみなさんと一緒につくった景色を、日々何気なく行き来しているまちなかにも増やしてみることを目的に、中心市街地を舞台とした社会実験を実施しました。
企画実施に向けては、実際にまちを歩きながら魅力的なスポットを探し、活用する場所を決めていくワークショップを行いました。そこで結成されたチームごとに、管理主体（道路であれば道路管理者、公園であれば公園管理者など）との調整を進め、さらに沿道の店舗とも協力しながら企画を実施するなど、市民のみなさんと一緒にまちなかの新しい景色を生み出しました。

くみちゃん
茨木市のこれからを楽しみにしている
広報誌が大好きな市民



おにクルでやりたいこと

「おはなしのいえ」で
孫に絵本を読むのが楽しみ。



道路の上で遊ぶ企画、
チヨークでお絵かきの様子

主人の転勤で茨木市に来て、茨木市に知り合いがほしいと思いワークショップに参加。まちづくりに参加してみたい好奇心もありました。道路にお絵描きをする社会実験を企画して実施。子どもたちはもちろん、親も夢中になってとても楽しかったです。

おにクルに期待すること

大きなイベントだけじゃない、
小さい活動も生まれる場所に。

市民が広場に芝生をはることができるなんて、おもしろそう！と思って、芝生はりのワークショップに参加。その後の社会実験では「ひと箱市」などを開催しました。日常的におにクルに行きたくなるしかけをつくっていきたいです。

Minakoさん
「いばジャル」で茨木市の日常を発信/
茨木市市民活動センター「ぎやばす」
市民活動コーディネーター



うえのさん
Locaco Project
Electric Music IBARAKI



IBALAB@広場の好きなおとこ

市内のいろいろなおとこに
広場があるといい。
おもしろい人が発掘できるおとこ。

プランターをつくったり、人工芝をしいたりするところでお手伝いするようになりました。ものづくりをする機会があると、真っ先に声がかかるような存在になってきています。楽しそうだと思う活動に参加することを大切にしていきたいです。



Electric Music
IBARAKIの様子

茨木市のいいところ

個性を尊重しながらお互いの
顔が見える関係性があること。

茨木市の日常生活で偶然アートに出会って触れられる企画をしています。IBALAB@広場のピクトグラムの制作も担当しました。おにクルを一つの起点にして、時間や人などさまざまなグラデーションやコントラストを表現していきたいです。

稲垣元則さん
One Art Project Director



茨木市のいいところ

まちがコンパクトで、おもしろい
人たちに会う機会が多いところ。

茨木市を拠点にアート活動をしています。5年継続したことでつながってきたことを実感しています。立場がさまざまな人たちと巡り合うきっかけがあるし、それをつくろうとしている人も多くいるのがいいところだと思っています。



CACOIBA
(茨木市市民会館跡地
仮囲いアートプロジェクト)

暫定広場の使い方を考えよう!ワークショップ



暫定広場(現IBALAB@広場)のオープンに向け、キーコンセプト「育てる広場」を体現する場としてどのような運用がいいか、市民のみなさんと一緒に考えるワークショップを実施しました。広場でやりたいこと(使い方)を考え、そのやりたいことを継続できるルール案を実際に完成した広場で自由に試す(やってみるDAYS)ことで、現在の運用の基礎となるルールが完成しました。



荻野紀子さん
ヨガインストラクター

茨木市のいいところ

困った人に手を差し伸べてくれるまち、安心して暮らせるところ。

多世代のコミュニケーションツールとしてボードゲームを使っています。社会実験IBALABのこたつにゲームを持っていったことがきっかけで、プロジェクトに参加しはじめました。おにクルがさまざまな垣根を超えてゆるやかにつながれる場所になるといいなと思います。

きみさん
子ども食堂などで遊び担当のスタッフをしている



IBALAB@広場の好きなおところ

完成せずずっと実験しているところ。実験はわくわくする!

茨木市でプロボノをやりたいと思って活動を始めました。いまでもNPOの活動支援をしていますが、ミルミルフムツクールで自分でも活動をするようになり、いまでは活動する側の気持ちがよくわかるようになりました。活動が楽しい!



名迷回答掲示板
プログラムの様子

ミッシーさん
名迷回答掲示板これもええんちゃう



IBALAB@広場の好きなおところ

体だけでなく心も動かすようなプログラムにぴったりな開放感のある空間!

IBALAB@広場がどんな場所か気になっていた時、広報をみて活用できることを知りました。コロナ禍でスポーツジムが休業していたので、外ならできるとプログラムを開催することに。広場のFacebookなどを通じて新たな参加者が増えたのもうれしかったです。

山本博史さん
追手門学院大学 地域創造学部 教授



IBALAB@広場の好きなおところ

無理なく自然につながりが広がるおところ。

2020年の冬、コロナ禍で飲食店が苦しい時期にIBALAB@広場でイベントを始めました。それまで縁がなかった市民や団体とのつながりが増え、広場に足を運ぶことも増え、いまではいつでも広場の様子がわかるライブカメラが欲しいぐらいです。

中野拓二さん
茨木商工会議所



茨木市のいいところ

活動しているプレイヤーが多いこと。それは、茨木市にとっての宝!

2015年に地域創造学部ができたことをきっかけに、大学として市とも積極的に関わってこうと考えるようになりました。5人の学部生が「5地創マルシェ」という活動を始め、IBALAB@広場も使わせてもらっています。今後の展開が楽しみです。



商工会議所主催
「ひろばまつり」

ひろばかいぎ



IBALAB@広場でプログラムを開催した方たちが集まり、より広場が使いやすく、楽しい場になるようにとアイデアを交換し交流する場。2020年から定期的で開催し、社会実験の取り組みをとおして、実際に使っている主体が意見交換しながら、さまざまな使い方を考えていきました。

設計図面を見ながら
いろいろな可能性を探ったね!



設計ワークショップ



将来おにクルを使う市民のみなさんと一緒に、施設や広場の設計を考えるワークショップを開催。オンラインシンポジウムから始まり、お気に入りの時間の過ごし方を考えたり、おにクルでやってみたいことや使い方について設計者と一緒に考えていきました。やってきたことから必要な備品や設備など具体的なイメージについてもアイデアを出し合いました。(全5回)

茨木市のいいところ

ふらっと来て
誰かに出会える場所があること。



Locaco Projectが開催する「ふらっと」の様子

設計事務所を立ち上げた頃、伊東豊雄さんが設計する建物ができること知り、設計ワークショップに参加しました。茨木市はまちづくりに関わる人が多くて驚きました。ワークショップで描いた風景をみてみたいという思いで関わり続けています。

茨木市のいいところ

大人が全力で楽しんでいる姿を
子どもたちに見せられるまち!

市の施設といえば、規定が細かかったり厳しかったり使いにくいイメージでしたが、IBALAB@広場はいい意味で緩くて自由。でも、しっかりと市の職員さんがサポートしてくれる安心感のもと、楽しんでさまざまな挑戦をさせてもらうことができました。

おにクルでやってみたいこと

おにクルと一緒に育ち、
育てる立場になりたい。

平松諒大さん



小学4年生のときに、まちづくりアイデアプレゼンで市長賞を受賞してからまちづくりに興味がわき、それ以降さまざまなワークショップに参加し、大人と話す機会が増えました。おにクルでは防災士の資格をいかして活動してみたいです。

茨木市のいいところ

市民の参加を受け入れる姿勢が強い。

IBALAB plusのワークショップに参加したことで、市役所への敷居が低く感じるようになりました。そこでの出会いがきっかけで、生協組合員の活動場所の紹介や、IBALAB@広場で開催されたhop step dayの参加などにつながっています。

馬場徳二郎さん



IBALAB@広場の好きなおとこ

“ちゃんとしなくちゃ”をなくせる気軽さ。

市役所から広場で活動する団体募集があったときにいち早く手をあげました。屋内中心から屋外でもイベントすることになり、いまでは主催イベントだけではなくゲスト出演することも多数。これからはママさんたちが自然と知り合える空間をつくっていきたいです。

みかたがかわっ展



新施設と広場をつくるワークショップの最終回では、ワークショップで出ていた意見を踏まえて設計されたおにクルの模型などを使って、市役所内で展示会を開催。ワークショップに参加していなかった市民のみなさんにもおにクルのことや、設計の経過をお知らせする機会になりました。



IBALAB@広場で歌うohana

村上貴信さん
Locaco Project



阪脇乃理子さん
こども向け音楽グループohana



いばらきひらこか



おにクルオープンとともに移転する茨木市市民活動センター。ここで、多様な主体による交流や新たなつながり、出会いの機会をつくっていくために、市民のみなさんと一緒にこれからの時代に求められる市民活動について学び、新しい市民活動センターでの活動のアイデアや企画を考えるワークショップ「いばらきひらこか」を開催(全7回)。

ゲストから学ぶ



設計者の視点からこれからの時代に求められる市民活動について話し合いました。

小さく実験



ワークショップ参加メンバー内で活動を実験。団体が単独で実験する「ソロ」、複数団体が連携して実験する「コラボ」、さまざまなサポート方法を実験する「サポート」。この3つのテーマのもと、合計8つのプログラムが披露されました。



これからの市民活動について講演。

ひらこか手帳



「いばらきひらこか」では、参加者一人一人に『ひらこか手帳』を配り、毎回のワークショップでの学びや気づきを書き込んでいただきました。『ひらこか手帳』に書き込まれたさまざまな言葉からヒントを読み取り、コンセプトを検討していきました。

ささかさん
MO法人わんだーらんど
こども食堂を始め、子育て、子育て、親育ちを
応援する活動を実施している



茨木市のいいところ

昔からの人と新しい人たちが混ざり合っている感じ！

地域の人みんなで子育てに関わることができて、地域が一つの家のように感じられるといいなと思い活動しています。「いばらきひらこか」に参加したことで、いろいろな人と出会い、茨木市の市民活動のあり方を考え、自分で何かを起こそうと思うようになりました。

北川詩織さん
茨木高校



おにクルでやりたいこと

新しい施設にわくわくしている。
おにクル見学実行委員会を立ち上げてみたい！

留学前に地域の人たちと関わる経験がしてみたくて「いばらきひらこか」に参加しました。年上の方と話すことに初めは緊張しましたが、みなさん優しくかったです。ワークショップの参加も初めてでしたが、今後できることにチャレンジしていきたいです。



「いばらきひらこか」で
アイデアを話している北川さん

おにクルに期待すること

自分の好きな場所としておにクルを
あげてもらえるような場所になってほしい。

チャレンジいばらきの補助金を活用しながら活動を展開しています。おにクルでどんなことができるかはまだ未知ですが、関わった自分たちが他の人にもおにクルができた経緯など伝えられるようになればいいなと思っています。

辻下健二さん
すこやかイノベーション



IBALAB@広場の好きなおとこ

難しそうなことも工夫して
できるように活用する場所。

茨木コモンズでいばらきマルシェを始め、運営していく中、「芝のみ」などのイベントを開催するようになり、ひろばかいぎなどのワークショップにも参加するようになりました。IBALAB@広場のように自由にいろんな人とシェアして活動できる場所になることを期待しています。



茨木コモンズ/木村菜園
木村匡志さん

木曾稔之さん
大人から子どもまで楽しめる
イベントを開催など



おにクルに期待すること

困っている時に
応援できる、寄り添える
場所に。そんな役割を
担えるような活動がしたい。

行政の支援が届きにくい子育て中の親子の受け皿となるように、2016年に法人を立ち上げました。IBALAB@広場などで「子育て相談ふらっとサロン」を開催。一人でやっても広がりがないので、活動には仲間が必要です。



一般社団法人
子育てサポート・えん
松岡彰子さん



「子育てアラサークルたまふら」で
こどもの遊び場づくりをしている
なべみさん

おにクルに期待すること

参加機会も空間もあるので、
みんなが行きやすい
場所になったらいいな。

まちに音楽をとっていたので、駅前などいろいろな場所でイベントをしたり、まちと関わる機会が増えて活動が広がりました。コロナ禍で学生とも活動を始め、学生のやりたいことを応援しています。茨木市の人は失敗も受け止めてくれる懐の深さがあります。

IBALAB@広場の好きなおとこ

いつも元気をもらえる場所。

育休中はコロナ禍でしたが、こどもの遊び場をつくりたいと思っていて、「いばらきひらかこ」に参加したことをきっかけに団体を立ち上げました。その時に会った団体さんとはいまでもつながりが続いています。おにクルだけではなく、広場がある限り活動を続けていきたいです。

ルールづくり会議



IBALAB@広場での活動やワークショップなどの取り組みに参加してきた市民が主に集まり、おにクルで展開する市民活動のルール(条例に関するものや、運営や利用に関するルール)を検討しました。(全5回)

① やりながら考えよう

まずはやってみることに始めてみよう！活動をしていく中で、上手くいくことや上手くいかないことが見えてくる。そうして見えたことをおにクルで活動する仲間と共有しながら、よりよい活動を考えていこう。

② ちょっと先の未来を想像しよう

活動を続けるためには、まず自分が楽しむことが大事。そして、あなたの活動が誰かの楽しさにつながっているか、誰かのためになっているかを想像してみよう。

③ チャレンジしよう

いつかはやってみたいと思うことがあるなら、まずは友人や家族、市民活動コーディネーターに相談してみよう。共感の輪が広がれば、やる気も湧いてくるはず。ほんの少しのチャレンジを加えて行動に移してみよう。

④ 場をシェアしよう

おにクルや広場は子どもから大人まで、さまざまな人が利用するはず。みんなが心地よく、また来たいと思えるような場となるよう心がけよう。

⑤ 楽しさ・つながり・
儲けの循環をつくらう

楽しさやつながりを自分の中だけにとめておかないようにすると、活動は自然とひらかれたものになっていく。金銭だけではない、活動から得られるさまざまな儲けを循環させていこう。

プレーヤー自身が
より使いやすい方法を
考えたね！



おにクルに期待すること

おにクルではもっと
たくさんの人に声を
かけてもらえそう。

IBALAB@広場で何かやりたいと思って、手づくり市を開催しようと友だちに声をかけました。それ以来定期的に手づくり市を開催しています。広場に来るといろんな人から声をかけてもらえます。子どもたちも知らない子ともいつの間にか仲良く遊んでいるんです。



pop up market
浜名香菜さん



pop up market
小松あさみさん

茨木市のいいところ

市民じゃないのに
茨木市が好き。

IBALAB@広場の整備中から、使える日が来るのを楽しみにしていました。地元の人が出店し地元の人が参加できるマーケットを主催していますが、おにクルではどんなかたちで開催できるか、いまからとても楽しみにしています。



WS5回 / 社会実験1回 / 展覧会1回

おにクルをフィールドに、茨木市の日常をおもしろく楽しく充実させていくためのデザインを学ぶ講座「ミルミルフムツクール」を開催。デザインのプロセス「見る(現地調査、課題定義)」「考える(アイデア創出)」「つくる(プロトタイプング(試作)、検証)」のステップを実践しながら何度も行き来し、かたちにしていくデザイン思考を学びました。その結果、6つの取り組みがスタートしました。

デザイン思考



ワークショップでは理想の未来をイメージし、それを実現するための小さな一歩となる活動を考えていきました。

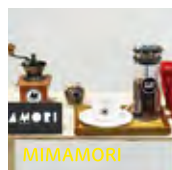


参加者から生まれたアイデアを、楽しく試してみる実験「ミルミルフムオープンツクール」

誕生した6つの活動



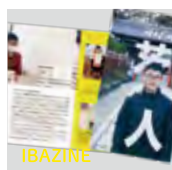
アップサイクルを取り入れた暮らし・ものづくりの楽しさを伝える場づくり。



コーヒーを楽しむ30分の“ちょっといいこと”、みまもりのお手伝い。



おいしいお店を取材・発信し、地域のつながりを生み出す大人の部活動。



茨木市内で活躍するおもしろい市民を取材し発信する手づくり雑誌。



ちょっとした小さな悩みや疑問を解決してくれるかもしれないしくみ。



みんなの出会いへの一歩を歓迎するウェルカムステージ。

茨木市のいいところ

否定されずいろいろ許容してくれる余白を多くつくってくれているところ。

人とコミュニケーションをとることに苦手意識があったのですが、それを変えるために夫がワークショップに申し込んでくれました。参加してみると個性的な人が多く、自分の考えを話せるようになり、友だちが増えて世界が広がっています。



たたらば珈琲 / 茨木 commons / グラフィックデザイン専攻 / 藤井あかねさん

おにクルに期待すること

おにクルを市民が使って、茨木市っていいな!って、住んでいることを自慢できるまちにしたい。



名迷回答掲示板 / これもええんちゃん / 中村昌浩さん

インターネットでミルミルフムツクールの案内をみて参加。ワークショップから探偵ナイトスクープに寄せられるような相談を集めて、みんなで解決する名迷回答掲示板という活動をしています。せっかく建てるのだから、おにクルでにぎわいをつくりたいです。

村山純一さん / 大阪府立茨木高等学校教諭

IBALAB@広場の好きなおところ

IBALAB@広場のイベントに一番出ています! 活動が楽しい!

2019年の茨木まちみレポーターの講座に参加して、SNSを活用して茨木市の情報を発信していました。その後、茨木 commons に加入し、広場でイベントをするようになり、いばらきマルシェという企画のお手伝いなどを行っています。広場でこれまでやってきたことをおにクルでも続けていきたいです。



赤田裕明さん / 2年間初代いばらき応援団長として茨木市の情報を発信

おにクルに期待すること

高校からもよく見えるおにクルが、学生にとって思い出の風景になるような活動がしたい。

コロナ禍に茨木高校に異動。地域連携を進めていきたいと、まずは自分がワークショップ(いばらきひらこか)に参加することから始めました。ワークショップに参加することで実際に茨木市で活動されている人が見えるようになり、つながりも広がりました。



- 2021.9~12 ルールづくり会議
- 2021.7~2022.3 ミルミルフムフムツクール
- 2021.6~2022.1 いばらきひらこか

2022

IBALAB@広場の好きなおとこ

こどもが憧れるような
大学生と出会える場所。

芝生をはろうという取り組みに参加したのがきっかけでイベントに出席したり、IBALAB@広場に遊びに来たりするようになりました。最近はこちらでこどもたちだけでIBALAB@広場に遊びに来ています。さまざまな世代の子が交わる場になったらいいなと思っています。



細田 / ART class+α
ふくしぼみくすと
みまきんぐさん

IBALAB@広場の好きなおとこ

一人で来ても
誰かとつながっている、
誰かという感じがする場所。

手芸などのものづくりが好きで、デザインを勉強したいなと思っていたところミルミルフムフムツクールの募集を知り、悩んだ末に参加を決意。まさかおにクルの開館まで関わるとは思っていませんでした。ものづくりの経験を活かしていることがうれしいです。



越智直子さん
細市 / coparasparas
ハンドメイド作家

茨木市のいいところ

新しいことを
始めるための
熱意がすばらしい。

結婚とともに茨木市に来た当初から、ローズWAMで知り合った多世代の仲間に助けられてきました。その後市主催の講座などに参加していく中で、巡り巡って今度は自分が市内の活動者を応援する立場になれたことがうれしいです。



MIMAMORI
茨木市市民活動センター「きよはす」
市民活動コーディネーター
川上圭子さん

茨木市のいいところ

こどもたちに自分が
茨木市出身なんだって
胸を張って言ってもらいたい。

茨木市に引っ越してきて広報誌を読むようになり、市内にはおもしろいことがいろいろあることを知りました。自分ができる範囲で関わってみるうちに、茨木市が好きになっていきました。関わることは好きになるためのきっかけになると思います。



桑田奈穂子さん
MIMAMORI

おにクルに期待すること

こどもと一緒に
遊べる場所が
いっぱいあるといいな。

IBALAB@広場のイベントは子連れでも参加しやすいものが多く、時間があえば行くようにしています。「できるかな?でないかな?」は、家でこどもと一緒に育てるのがおもしろく、おにクルへ植樹した後もこどもと一緒に成長を追っていきたくと思っています。



山田夢衣さん
結月ちえん

おにクルに期待すること

緑がいっぱいのおにクルに、
自分たちが育てた植物も
あるのがうれしい。

こどもが大きくなるにつれて、茨木市を知り、仲間をつくってみんなで子育てをしていきたいと思うようになりました。実際に巻き込まれてみたら知り合いが増え、まちを歩いても声をかけられるようになったのがうれしいです。



服部稚子さん
茨木を緑のまちにしたい人



できるかな?
でないかな?

おにクルの建設に市民のみなさんが関わるワークショップを全4回開催。初回は茨木里山センターの土から埋土種子を育てておにクルの敷地に植える「できるかな?でないかな?」を開催。トークセッションやおにクルで使うA型看板づくり、「おはなしのいえ」のタイル貼りなどのイベントや、伊東豊雄さんと名和晃平さんとのトークセッションなど、たくさんの方に参加していただきました。

おにクルにある木は、
茨木の里山から来たんだね!



Coordinator Training College

COTOLLEGE

コーディネーター養成講座
コトレジ

茨木市の市民活動を楽しく充実させていく市民活動コーディネーターを発掘・育成するために、一緒に学び活動していける市民を募集し、ワークショップ形式の養成講座を開催。コーディネーターに必要なスキルを身につけるために、座学だけではなく、さまざまなフィールドでの実践演習を実施しました。

プレーヤーだけでなく
支えるコーディネーターも
大切な役割だね！



WS5回 / 実践演習4ヶ月



5回のワークショップを通して、参加者同士で意見交換しながら学び合っていました。



ワークショップの現場で運営側として参加するなど、さまざまなフィールドで実践的に学んでいきました。

茨木市のいいところ

いろんな関わり方を提供してくれる
いい意味でのゆるさがある。

大学生になったタイミングで地元でなにか活動したいと思っていました。学生と地域をつなぐ団体に入ったところ、先輩の茨木愛が強く、自分ももっと茨木市を知りたいと思いました。いまはいろいろな人に出会えて、いつも発見とエネルギーをもらっています。



宮本沙綾さん
茨木市の大学生
茨木市市民活動センター「きゃばす」
市民活動コーディネーター



ぐるり0円
お譲り交換会の様子

IBALAB@広場の好きなおところ

通り過ぎるだけの人にも
知ってもらえる光景がいい。

すてきな空間だな！と思ったイベントの主催者に声をかけたり、たまたま広場で同じ日にイベントをすることになった団体と仲良くなったり、広場に行くとおもしろいことをしている人に出会えるのが楽しい。



ななこさん
エンカルマーケット、物々交換会など
茨木市で一番地域に優しいイベントを主催



サンドイッチマンになり
「おにクルへ行こう大作戦」をコア

茨木市のいいところ

出会う人みんながおもしろい！

おにクル開館に向けて機運が高まっているのを横目に、自分も参加してみたいと思い飛び込みました。開館してから20年、30年と経った時「昔のおにクルはね…」と小さな子どもたちに語れるような人になりたいと思っています。



高田聖矢さん
茨木市市民活動センター「きゃばす」
市民活動コーディネーター

茨木市のいいところ

市民活動の幅の広さにびっくり。

市民活動センターに勤め始めて各種団体のみなさんと関わるようになってから、市内でこんな活動があるのかと多くの気づきがありました。市民活動センターはおにクル7階に移転するので、おにクルを訪れた際にはぜひ立ち寄ってほしいです。



久原深雪さん
茨木市市民活動センター「きゃばす」
チーフスタッフ

IBALAB@広場の好きなお話

青空の下、芝生の上で
たくさんの人と
出会えるところ。



大阪友の会北摂方面
狩野尚美さん

大阪友の会を知らない人に、ふらつと寄ってもらえるようにIBALAB@広場での活動にチャレンジしました。おにクルでは、子育て世代を応援する活動や、環境・家計などをテーマとした生活のアイデアを発信していきたいです。



茨木市市民活動センター
「きやばす」センター長
入交享子さん

IBALAB@広場の好きなお話

興味や参加のありなしに関わらず、活動を見てもらえる
間口の広さがいい。



立命館大学学生ボランティア
コーディネーター
きたまりさん

初めはイベントのお客さんとしてIBALAB@広場に来ていましたが、いまは自分の団体の活動もしています。広場だと登校拒否の子もそうでない子も来てくれて、イベントに参加してもしなくても活動を見てもらえるのがいいところだと思っています。

おにクルに期待すること

茨木市中のみんなを
混ぜ合わせる場所に。

おにクルには、市民活動センターが入り、市民活動コーディネーターが常駐します。オープンスペースもたくさんあり、茨木市民がますます活躍できる場になっています。おにクル内の機能をフル活用し、全世代が来る施設に。地域で子育てするまちにしていきたいです。

茨木市のいいところ

まちに出ることさまざまな
生き方をする大人と出会い、
ロールモデルを見つけられる。

大学進学で茨木市に来て、あちこち歩く中でまちの楽しさを知り、地域につながる活動をしようと思いました。いまはわくわくできる経験ができています。他の大学生にももっとまちに出ていろんな人に出会い、知り合いやつながりを増やしてもらいたいです。

取り組みに参加してよかったこと

関わることでさまざまな
変化が身近に感じられる
ようになったこと。

もともとさまざまな市主催のイベントに参加していましたが、もっと関わりたいと思い「いばらきひらこか」に参加しました。参加する側と運営する側両方の体験ができたのがおもしろく、おにクルでも何かしらのかたちで関わっていきたくて考えています。



パワー!フルなイベント
丹後大輔さん

SAMさん
コーヒー店開業にむけて修行中、
DIY好き



取り組みに参加してよかったこと

どんどん輪が
広がっていく感じが楽しい!

ローカル情報サイト「いばジャル」で「おにクルへ行こう!大作戦」のボランティア募集をみて、イベントづくりの裏方に興味があり参加。研究職として20年間勤めた会社をやめて新しい取り組みにむけて勉強中です。この活動を通して視野が広がったと思います。

おにクルへ行こう!大作戦

準備会などの4回
イベント1回、振り返り会1回



おにクルの7階へ移転する市民活動センターが、図書館や子育て支援課などおにクルと一緒に市役所各課との連携をテーマに、ローズWAMやIBALAB@広場を会場にイベントを開催。市民活動団体やボランティアのみなさんが参加し、こどもも大人も楽しめる、そして学ぶことができるプログラムがたくさん開催されました。

● 2022.7~2023.2 COTOLLEGE

● 2022.11.5 / 2023.3.11 hop step day

2023

おにクルでやってみたいこと

おじいちゃんおばあちゃんが小さい子を見てあげられるような、家族ではないが大家族のようなつながりをつくりたい。

hop step dayの2回目に参加。初めてIBALAB@広場で活動する方が集まると聞き、いろんなつながりができること、これから新しい取り組みをスタートしたいという思いにもマッチして、楽しい経験になっています。



杉谷さん
コムニカテラ株式会社

おにクルでやってみたいこと

やってみたいことを型にはめずに実現できる方法を一緒に考えていきたい。



市民活動コーディネーター
蔭本真由美さん

ミルミルフムツクールに参加し、茨木市を盛り上げようと意欲的に活動している方に出会い、市民活動をサポートするコーディネーターに興味を持ちました。活動している人自身がわくわくし、楽しみながら継続できるように、まずは小さな一歩を踏み出せるサポートをしていきたいです。

うやまくん
こどもに昆虫の魅力を伝えたい高校生



hop step day



IBALAB@広場で初めて活動する個人や団体を募集し、企画立案から当日の実践、そしてふりかえりまで、市民活動コーディネーターが企画の実現に向けてサポートをする取り組みです。参加した活動主体が継続的に芝生広場でプログラムを開催したり、市内で活動を展開するなど、活動主体の発掘や新しいプログラムを生み出すしくみづくりにつながっています。(全11回)

おにクルでやってみたいこと

昆虫の飼育方法を学んで飼育セットを販売するプログラムがやりたい。

まちづくりの授業でhop step dayを教えてもらい、先生からそこで昆虫のプログラムをやってみたらどうかと誘われました。大人と関わって、プログラムをやり遂げる目標を達成できたことで、大人の仲間入りができたと感じています。

おにクルに期待すること

ルールなどがゆるやかで誰もが参加できるような場所だったらいいな。



和太鼓奏者
山口舞子さん

市民会館の階段の上で鼓動初めのイベントに参加しました。そのときに、太鼓のことをよく知らない人にもきいてもらったのが印象的でした。チームの活動を締めくくるタイミングで、同じ場所であるIBALAB@広場でイベントを開催できたのがうれしかったです。

ズンビーニインストラクター
いくみさん



IBALAB@広場の好きなおとこ

まちの若い子たちがのびのびとしている姿がみられること。



NO COFFEE NO WORKEE
大倉翼さん

IBALAB@広場がにぎわってくる中で、近くに店を構える僕らもなにかチャレンジしてみようと思ひ、広場で活動し始めました。市役所の施設なのにやりたいことができるように相談にのってくれるのがありがたいと思っています。

おにクルでやってみたいこと

大人でも友だちができるコミュニティづくり。

親子教室がきっかけで仲良くなった子育てサークルのメンバーと何かしたいと思っていた時、hop step dayの募集を知りました。広場でズンビーニのプログラムを初めて開催でき、そこからさまざまなつながりが広がっています。

大交流会



「ミルミルフムツクール」、「いばらきひらか」、「コトレッジ」、「ひろばかいぎ」、「おにクルへ行こう!大作戦」、「hop step day」等、おにクルでの市民活動に関わるワークショップに参加したメンバーが一堂に集まり、お互い活動を知り合う交流会を開催。参加団体の活動を紹介する展示ブースや、建設中のおにクルを見学する時間など、オープン後の活動のイメージを共有しました。

IBALAB@広場の好きなおとこ

程よい距離感で
楽器の練習を見守って
くれている雰囲気。



TAKE★FIVE
香川さなえさん

コロナ禍で楽器の練習ができなくなり、音を出せる場所を探してたどり着いたのがIBALAB@広場でした。おにクルでは、練習と本番の間のような、公開練習ができたならおもしろいなと思っています。

茨木市のいいところ

公共施設の開館に
これほど市民が
関わっているのは
茨木市が初!



茨木市のまちを劇場に見立てる
活動を続けて20年
おやびんさん

舞台の仕事の経験を活かして、自分の住むまちの役に立ちたいと裏方を育てる活動をしています。お金ありきではなく、自分が楽しいと思うことをやる!市民自ら汗をかき、いきいき活動する、それを行政がサポートするようなまちになっていったらいいなと思います。



平松綾子さん



おにクルのオープニングイベントで開催する市民プログラムは、これまでの関わりから運営に興味のあるメンバーを募集し、実行委員会を立ち上げました。市民が手づくりでプログラムを検討し、おにクルオープンを盛り上げる準備を進めました。(実行委員会6回)

茨木市のいいところ

市役所が市民の意見を取り入れて
まちを良くしていこうという姿勢が
伝わってくる。

当初は小学生の息子の保護者として来ていました。周りの大人たちが息子をこども扱いせず対等に接してくれることがうれしかったです。一つの目標に向かって市民と市役所が一緒に進む過程に自分も関わりたいと思い、参加することにしました。今後のおにクルも楽しみです。

IBALAB@広場の好きなおとこ

開放的で全体に
目の届く規模感の
広場が使いやすい。



ハンドメイドの商品を販売する
0726マルシェを主催
mimikoさん

イベントの受付を手伝ったのをきっかけにIBALAB@広場に関わるようになりました。このイベントの半年後にはマルシェを自身で企画。出店者は自分で声かけし、統一感のある空間づくりにこだわっています。おにクルを中心とした動きをもっと市内全体に広げていきたいです。

おにクルに期待すること

IBALAB@広場で広がった
つながりがおにクルでさらに
広がってほしい。

第2第4木曜日にIBALAB@広場で作業所の販売会をしています。お客さんと接する機会ができ、引っ込み思案だった利用者が人前で話せるようになりました。他の作業所からも声をかけてもらうなど、つながりやネットワークが広がっています。



就労継続支援B型
グリーン作業所
矢沢まりさん

ヨガ講師
天方由美子さん



取り組みに参加してよかったこと

活動を続けるためには、
自分が楽しむことが大事だと
気づかせてもらったこと。

100人会議の傍聴をきっかけに、設計ワークショップやミルミルフムツクール、コトレッジなど立て続けに参加するようになりました。その中でも動画講座が楽しく、いまでも自分の団体の活動やおにクルの情報発信に役立っています。

おにクルに期待すること

IBALAB@広場に
行ったら誰かがいる。
おにクルもそうなってほしい。

ヨガを広めるために市内のお寺で活動している中でIBALAB@広場に会いました。ヨガ参加者が周辺のお店に立ち寄る機会をつくりたいと思い、飛び込みでコーヒー店に割引券の発行をお願いしたら快く了承してくれて以来、連携しています。